

II 講義要綱

(注)担当者の職位は2016年1月時点のものです。

1. 総合教育科目

哲学(2単位) 担当者:文学部教授 上枝 美典・講師 植村 玄輝

2015年度夏期スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

この講義では、西洋哲学の伝統的な問題の一例として、「神の存在証明」を取り上げる。講義の前半では、具体的に、3種類の証明を取り上げて概説し、後半では、主としてカントの立場から、それら3種類の証明にたいして、批判を加える。

- 〔第1回〕 宗教的議論の意味
- 〔第2回〕 神の存在証明について
- 〔第3回〕 宇宙論的証明
- 〔第4回〕 目的論的証明
- 〔第5回〕 存在論的証明
- 〔第6回〕 信仰と理性
- 〔第7回〕 批判哲学の狙いと基本的な枠組み
- 〔第8回〕 神の存在論証の不可能性(1):存在論的論証の場合
- 〔第9回〕 神の存在論証の不可能性(2):宇宙論的論証
- 〔第10回〕 神の存在論証の不可能性(3):目的論的(自然神学的)論証
- 〔第11回〕 理性信仰に関するカントの見解
- 〔第12回〕 総括

■テキスト

指定しない。

■参考文献

上枝美典『「神」という謎〔第2版〕』(世界思想社、2007年)

イマヌエル・カント『純粹理性批判』・『実践理性批判』(これら2冊についてはいくつかの翻訳があるので、書店や図書館で試し読みをして、読みやすいと思ったものを選ぶのがよい)

『たんなる理性の限界内の宗教』(岩波書店、2000年)。

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

社会学(2単位) 担当者:文学部准教授 近森 高明

2012年度夏期スクーリング収録 配信回数 全11回

■講義要綱

自由にふるまっているつもりが、じつは不自由なゲームに閉じこめられていた。抑圧からの解放を目指す行動が、いつの間にか新たな抑圧を生みだしていた。合理を追求する試みが、知らないうちに非合理的な仕組みを作りだしていた——。多数の人間からなる社会は、こうした種類の「意図せざる結果」に満ちている。十九世紀にはじまる社会学のあゆみは、私たちの生を支えると同時に、それを裏切ってしまう社会の不透明な成り立ち、社会の不可解な厚みを、どうにか理解しようとする試みの軌跡であった。その軌跡を振り返ることにより、社会学という学問がもつ思考の特質を考察してみたい。

社会学の基本的な考え方を、著名な社会学者のオーソドックスな学説や命題を追いながら紹介してゆく。たんに知識を詰め込むだけでなく、学んだ概念や命題をじっさいに周囲の事例に応用できる、生きた社会学の思考スタイルを獲得することが目標となる。意外性や非自明性に満ちた、社会学的思考の〈面白さ〉を実感してもらうため、できるだけ多くの具体的事例をあげながら説明をすすめる。

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』(筑摩書房、2011年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月中旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

自然科学概論(2単位) 担当者:法学部教授 秋山 豊子

2012年度夏期スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

現在の生物学で重要なテーマである遺伝子や発生、ガン、免疫や老化の仕組みなど、ヒトを含めた動物の身体の中の仕組みや、最近注目されたiPS細胞やES細胞などについて講義します。現代の生物学を理解し、そこから生じる社会的な問題提起を考えるよい機会としてください。

スクーリング6日分、各日2回分の計12回分の講義です。

- 1.2 生物の概念 発生と発生工学、iPS細胞
- 3.4 遺伝子の動き 遺伝子の複製と遺伝情報発現
- 5.6 遺伝病と遺伝子治療、遺伝子診断
- 7.8 ガンの生物学 発ガンの仕組み
- 9.10 免疫の仕組み エイズ、アレルギー、花粉症
- 11.12 成長と老化 授業のまとめ

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載します。

■参考文献

種田保穂・秋山豊子共著『“生きる”ってどういうこと？ 生命のしくみを探る生物学』(培風館、2006年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

■履修上の要望または受講上の前提条件

下記のような興味や関心があり、熱意と好奇心を持つかたに聴講をおすすめします。

- 1.現在の生物学の状況について興味があること
- 2.生きものが生きている仕組みに不思議を感じていること
- 3.自分の体の仕組みや健康に関心があること
- 4.「遺伝子」について興味があること

2. 文学部専門教育科目

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のものをご参照してください。

倫理学特殊(2単位) 担当者:文学部教授 柘植 尚則

2014年度夜間スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

経済は人間や社会に大きな影響を与えます。この講義では、経済における倫理的な問題について考え、人間や社会にとって望ましい経済のあり方を探ります。

- 〔第1回〕 経済倫理学とは
- 〔第2回〕 経済倫理の歴史
- 〔第3回〕 経済倫理学の歴史
- 〔第4回〕 経済倫理学の原理
- 〔第5回〕 労働
- 〔第6回〕 企業
- 〔第7回〕 市場
- 〔第8回〕 経済システム
- 〔第9回〕 福祉
- 〔第10回〕 環境
- 〔第11回〕 消費
- 〔第12回〕 経済、人間、社会

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

柘植尚則『ブレップ経済倫理学』(弘文堂、2014年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月末と5月下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

英語学(2単位) 担当者:文学部教授 井上 逸兵
2013年度夏期スクーリング収録 配信回数 全15回

■講義要綱

語用論、社会言語学の基本的な知見を学びながら、世界の英語(World Englishes)を材料として英語学および英語の現代における諸問題を論じる。

■テキスト

Y. カチュルー・L. スミス『世界の英語と社会言語学』(慶應義塾大学出版会、2013年)

■参考文献

テキストにあるものを適宜

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価:40%
- 課題(レポート)による評価:30%
- 授業の視聴状況:30%

社会学特殊(2単位) 担当者:法学部教授 玉井 清

→p.32 日本政治論を参照

近代日本と福澤諭吉(2単位) 担当者:法学部教授 岩谷 十郎

→p.29を参照

3. 経済学部専門教育科目

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のを参照してください。

経済原論(2単位) 担当者:経済学部准教授 玉田 康成・経済学部助教 八尾 政行

2014年度夜間スクーリング収録 配信回数 全11回

■講義要綱

我々が直面している「経済」という現象に対し、実践的にその問題を解決するということが経済学の役割として求められている。一方で、経済学には問題が発生する原因やその解決法を理論的に分析することも必要とされている。本講義は現代の経済学の理論研究について、その入門的内容を解説する事を目的としている。現代の経済学は経済の構成員の視点を基にしたミクロ経済学、経済全体を俯瞰する視点を基にしたマクロ経済学に大別される。ミクロ経済学、マクロ経済学は相補関係にあり、両方をよく理解することが重要である。第1回は総論的な、経済学全体についての概観を講義する。第2回から第7回まででミクロ経済学について触れる。第8回から第11回まではマクロ経済学を扱う。これらを通して学べば、現代の経済学について、特に学問的に経済を分析しようとしている者が持っているべき知識の基礎的な部分を吸収することができるものと考えられる。

- 〔第1回〕 総論:経済理論とはなにか
- 〔第2回〕 消費者理論(1)
- 〔第3回〕 消費者理論(2)
- 〔第4回〕 生産者理論
- 〔第5回〕 均衡理論
- 〔第6回〕 パレート効率性と厚生経済学の基本定理
- 〔第7回〕 市場の失敗と不完全競争市場
- 〔第8回〕 経済の活動水準
- 〔第9回〕 財政政策の効果とIS曲線
- 〔第10回〕 LM曲線とIS-LM分析
- 〔第11回〕 経済成長理論
- 〔第12回〕 総括

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載します。

■参考文献

福岡正夫『ゼミナール 経済学入門〔第4版〕』(日本経済新聞出版社、2008年)

その他の参考文献は別途お知らせします。

■受講上の要望または受講上の前提条件

特に前提となる知識はない。ただし、微分についての知識があると授業をより深く理解することができる。

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月中旬と6月上旬頃に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

経済学史(2単位) 担当者:経済学部教授 池田 幸弘

2015年度週末スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

経済思想史研究についての入門的講義。主として、イギリス古典派からカール・マルクスまでの経済思想を扱う。本講義では経済思想史を主題として扱うかわら、経済学全体についての鳥瞰図、そして経済学の各分野の連関などについて一定の理解を与えることも意図している。できるだけ平易な講義を志したい。

- 〔第1回〕 経済思想史研究とは何か
- 〔第2回〕 スミスの分業論
- 〔第3回〕 スミスの自然価格論
- 〔第4回〕 スミスの資本蓄積論
- 〔第5回〕 マルサスの人口論
- 〔第6回〕 マルサスの農業保護論
- 〔第7回〕 リカードウの比較生産費説
- 〔第8回〕 過剰生産恐慌とは何か
- 〔第9回〕 J. S.ミルの自由論
- 〔第10回〕 初期マルクス入門:経済学・哲学草稿
- 〔第11回〕 初期マルクス入門:ドイツ・イデオロギー
- 〔第12回〕 社会主義とは何だったのか

■テキスト

必要に応じて、その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載します。

■参考文献

堂目卓生『アダム・スミス—『道徳感情論』と『国富論』の世界』〔中公新書〕(中央公論新社、2008年)

※紙媒体・「Kindle」とも利用可

廣松渉『今こそマルクスを読み返す』(講談社、1990年)

※Kindle版も利用可能

■受講上の要望または受講上の前提条件

総合教育科目としての「経済学」を履修していればなおよいが、それを受講の条件とはしない。

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

近代日本と福澤諭吉(2単位) 担当者:法学部教授 岩谷 十郎

2012年度収録 配信回数 全14回

■講義要綱

福澤諭吉が日本の近代化に最も大きな刺激を与えた思想家の一人であることに異論を唱える者は少ない。しかしそれにもかかわらず、福澤が唱えた人間や社会の在り方は、その後の日本社会で必ずしも実現したわけではない。むしろ、その多くは未完のまま現代にまで残っている。福澤が提起した諸問題にどう答えるかは、実は現代のわれわれの課題と言ってもよい。

その福澤諭吉の人と思想を、本講義では多面的に考察する。近代において人間はいかなる存在であるべきか。この点は、福澤の家庭教育観や教育思想に強く現れている。近代精神の根本に自然科学的な知性を見ていたことも、福澤の近代人観を考える上で無視できない。また、社会を形成する原点として、新たな男女や家族の在り方を主張した。旧体制の身分にこだわる者達に対しては近代社会における人間の在るべき姿を説き続けた。

さらに、そのような人間観や社会観を基礎として、現実の政治に対しても発言をつづけた。あるいは、近代社会における法とは何かを示そうとした。人間が独立するための極めて重要な領域として経済についても論じた。また、経済活動の中心として近代経営を紹介し、経営の在るべき姿を説いてもいた。

本講義は、通信教育部経済学部の講義であるが、上記したように多領域にわたる福澤の思想を、経済をも含めて総合的に考察する。専門化が進み、時として知性の蝸壺に陥りかねない今日、本講義が諸科学や諸思想の関連性を認識する一助となることを願っている。本講義は、経済学部設置されるが、その内容は、文学部や法学部の学生諸君にも開かれたものである。

なお、講義は以下の章立てならびに担当者により進められる。

コーディネーター	小室正紀(経済学部教授)
1. 総論:福澤諭吉の生涯と「独立自尊」	同 上
2. 福澤諭吉の士族観	西澤直子(福澤研究センター教授)
3. 福澤諭吉の女性論・家族論	同 上
4. 福澤諭吉の教育思想(1)	米山光儀(教職課程センター教授)
5. 福澤諭吉の教育思想(2)	同 上
6. 福澤諭吉の家庭教育	山内慶太(看護医療学部教授)
7. 福澤諭吉と医学	同 上
8. 福澤諭吉の内政論	都倉武之(福澤研究センター准教授)
9. 福澤諭吉の外交論	同 上
10. 福澤諭吉と法文化(1)	岩谷十郎(法学部教授)
11. 福澤諭吉と法文化(2)	同 上
12. 福澤諭吉の経済論	小室正紀(経済学部教授)
13. 福澤諭吉の経営思想・近代企業論	平野 隆(商学部教授)
14. 福澤諭吉と福澤山脈の経営者	同 上

■使用テキスト

小室正紀編著『近代日本と福澤諭吉』慶應義塾大学出版会、2013年

■参考文献

(全 章)『福澤諭吉著作集』慶應義塾大学出版会、2002～2003年

慶應義塾編『福澤諭吉事典』慶應義塾大学出版会、2010年

(第1章)福澤諭吉『福翁自伝』(著作集・第12巻)慶應義塾大学出版会、2003年

(第2章)小川原正道著『福澤諭吉の政治思想』慶應義塾大学出版会、2012年

(第3章)西澤直子『福澤諭吉と女性』慶應義塾大学出版会、2011年

(第4章)・(第5章)

山住正己編『福沢諭吉教育論集』岩波文庫、1991年

山住正己校注『日本近代思想大系6 教育の体系』岩波書店、1990年

(第6章)渡辺徳三郎『福澤諭吉 家庭教育のすすめ』慶應義塾大学出版会、2010年

(第7章)『東京人(特集「日本細菌学の父 北里柴三郎」)』2012年7月増刊

(第8章)丸山真男『福沢諭吉の哲学』岩波書店、2001年

(第9章)青木功一『福澤諭吉のアジア』慶應義塾大学出版会、2011年

(第10章)・(第11章)

安西敏三・岩谷十郎・森征一『福澤諭吉の法思想』慶應義塾大学出版会、2002年

(第12章)藤原昭夫『福沢諭吉の日本経済論』日本経済評論社、1998年

(第13章)福澤諭吉『民間経済録・実業論』(著作集・第6巻)慶應義塾大学出版会、2003年

(第14章)宮本又郎『企業家たちの挑戦』(日本の近代11)中央公論社、1999年

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月中旬と5月上旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

倫理学特殊(2単位) 担当者:文学部教授 柘植 尚則

→p.24を参照

民法(2単位) 担当者:法学部准教授 前田 美千代・講師 阿部 史

→p.31を参照

日本政治論(2単位) 担当者:法学部教授 玉井 清

→p.32を参照

4. 法学部専門教育科目

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のものをご参照してください。

民法(2単位) 担当者:法学部准教授 前田 美千代・講師 阿部 史
2013年度夜間スクーリング収録 配信回数 全11回

■講義要綱

本講義は、民法財産法に関する基礎的知識の習得と、法的思考力の涵養を目的とします。そのために、民法総則・物権法・債権法のなかから、重要なトピックを抽出して解説します。具体的には、民法の基礎、契約の意義・成立・効力・履行・不履行、物権の意義・変動、担保物権の意義・効力、不法行為などを取り上げる予定です。

民法財産法は契約、所有、不法行為の3つを柱としていますが、本講義ではその全体をカバーすることになります。講義の際には、基礎的な事柄のみならず、応用的ないし発展的な論点にも立ち入って解説します。

〔第1回〕 民法ガイダンス・民法の構造	〔第6回〕 物権法総論
〔第2回〕 債権法総論	〔第7回〕 物権各論①
〔第3回〕 契約総論	〔第8回〕 物権各論②
〔第4回〕 法律行為	〔第9回〕 担保物権①
〔第5回〕 契約各論	〔第10回〕 担保物権②

■テキスト

池田真朗『民法への招待〔第4版〕』(税務経理協会、2010年)(市販書採用科目「民法」テキスト)

その他、プリントを適宜掲載する。

■参考文献

池田真朗『スタートライン民法総論〔第2版〕』(日本評論社、2011年)(市販書採用科目「新・民法総論」テキスト)

池田真朗編著『プレステップ法学〔第3版〕』(弘文堂、2016年1月刊行予定)

松井宏興・鈴木龍也ほか著『プリメール民法〈2〉物権・担保物権法〔第3版〕』(法律文化社、2005年)

■受講上の要望または受講上の前提条件

本講義を受講する際には、六法(小型のものでよい)を毎回かならず持参してきてください。

本講義受講上の前提条件はとくにありませんが、参考文献につき簡単に目を通しておくと講義の理解が進むと思います。

■課題(レポート)提出

1回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

日本政治論(2単位) 担当者:法学部教授 玉井 清

2014年度夜間スクーリング収録 配信回数 全12回

■講義要綱

日本の政治を、政治過程、政治制度、政治思想、政治文化の観点から多角的に、過去から現代までに表出した種々の具体的事例を取り上げながら下記の項目に従い実証的に講義する予定である。

- 〔第1回〕 授業方針の解説—政治学研究の一環としての日本政治研究—
- 〔第2回〕 集団主義的思考、行動様式について(1)
- 〔第3回〕 集団主義的思考、行動様式について(2)
- 〔第4回〕 政治変動と思想的転換の特徴について
- 〔第5回〕 政治指導者の選出基準について
- 〔第6回〕 政治指導者選出過程の特徴について(1)
—自民党総裁選を通じて—
- 〔第7回〕 政治指導者選出過程の特徴について(2)
—自民党総裁選を通じて—
- 〔第8回〕 政治指導者選出過程の特徴について(3)
—多数決より話し合い—
- 〔第9回〕 統治体制の特徴について(1)
—祭り上げの構造について—
- 〔第10回〕 統治体制の特徴について(2)
—祭り上げの構造と政治変動の関係について—
- 〔第11回〕 統治体制の特徴について(3)
—統治者と被統治者の近接と融合—
- 〔第12回〕 総括

■テキスト

特になし

■参考文献

北岡伸一『自民党』(中公文庫、2008年)

猪口孝『「族議員」の研究』(日本経済新聞社、1987年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

経済原論(2単位) 担当者:経済学部准教授 玉田 康成・経済学部助教 八尾 政行

→p.26を参照

経済学史(2単位) 担当者:経済学部教授 池田 幸弘

→p.28を参照

近代日本と福澤諭吉(2単位) 担当者:法学部教授 岩谷 十郎

→p.29を参照